

生活支援サービスの立ち上げ

【報告者】

清瀬市 生涯健幸部 介護保険課 地域包括ケア係
担当職員

清瀬市社会福祉協議会
第1層生活支援コーディネーター

清瀬市の概要

人口(総数) : 74,938人
 65歳以上 : 20,824人
 75歳以上 : 12,676人
 高齢化率 : 27.79%

(令和6年9月1日現在)

日常生活圏域 : 市内全域を1圏域

地域包括支援センター : 4か所

(直営1、委託3)



東京都

東西 : 4.63km
 南北 : 5.09km
 周囲 : 17.20km
 面積 : 10.23km²

清瀬市 生活支援体制整備事業のあゆみ

- 平成27年11月 第1層協議体設置
- 平成28年 4月 第1層生活支援コーディネーター配置
- 平成29年10月 第2層生活支援コーディネーター配置
- 平成30年10月 第2層協議体設置開始 4か所設置
- 令和 3年 4月 市の組織体制が変わり、担当課が変更

地域包括ケア推進課福祉総務係 → 介護保険課地域包括ケア係

(直営の地域包括支援センター)

生活支援体制整備事業

生活支援コーディネーターについて

	第1層生活支援コーディネーター	第2層生活支援コーディネーター
配置時期	平成28年4月～	平成29年10月～
配置人数	専任 1名	専任 3名
所属先	社会福祉協議会	地域包括支援センター（委託）
担当地区	清瀬市内全域	地域包括支援センターの担当地域
主な資格	社会福祉士	3名とも社会福祉士

4名のうち3名が、配置当初から生活支援コーディネーターとして活躍している。

生活支援体制整備事業

第1層協議体について

創設期（平成27年度～平成30年度）

各種団体（老人クラブ、シルバー人材センター、商工会、社協、地域の活動者等）に声をかけ、勉強会を経て、第1層協議体を立ち上げ。当時の行政担当が中心となり運営。

平成28年～第1層SC、平成29年～第2層SCは関係者として会議参加。

転換期①（令和元年度～令和2年度）

第1層SCが中心となり運営。当時の行政担当が事務局としてバックアップ。

令和2年度からはコロナ禍となり書面開催が中心。

転換期②（令和3年度～現在）

市の担当が介護保険課地域包括ケア係に変更。地域包括支援センター運営協議会 専門部会のひとつである

「地域ケア推進部会」と第1層協議体を兼ねる体制に変更。第1層SCが中心となり運営。

行政担当が事務局としてバックアップ。令和3年度は書面開催だったが、令和4年度以降は対面開催。

生活支援体制整備事業 第2層協議体について

平成27年～ 第1層協議体を中心に、第1層、第2層SCや協議体の役割や運営方法等検討。

平成29年10月 第2層SC配置。第2層協議体立上げに向けて他自治体等の取り組みを視察。

平成30年10月 第2層協議体設置。

現在、4か所設置。



生活支援コーディネーター・協議体 と行政担当の関わり

書類・事務	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年間の活動方針作成（SCと協働で作成）。 ➤ 計画書、半期報告書、月次報告等作成依頼。
会議・打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ SCの打合せ参加（月1回）。 ➤ 第1層協議体の事務局として運営。 ➤ 第1層協議体ワーキングチーム参加。 ➤ 第2層協議体の参加（必要時）。 ➤ イベント等打合せ参加。
活動・イベント等への支援	<ul style="list-style-type: none"> ➤ イベントで使用する公共施設等の予約。 ➤ 広報（市報掲載、掲示板、チラシを公共施設に設置等） ➤ SC、協議体等主催のイベントの手伝い。
連携・調整	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市役所内の他部署との連絡調整。 ➤ 介護支援専門員協議会等団体との連絡調整。情報発信。

「支え合い型移動支援」の立ち上げ

移動に関する困りごとを
地域住民や社会福祉法人の協働で解決するプロジェクト
「中里団地買い物バス テストイベント」



第1層協議体の課題検討の流れ(令和4-5年度)

- 地域ケア合同会議で「**移動手段**」「**高齢者とIT**」を全域で解決すべき課題と位置付けた。
- 各テーマでワーキングチームを設置し、委員有志にて具体的な検討を進めた。

POINT!

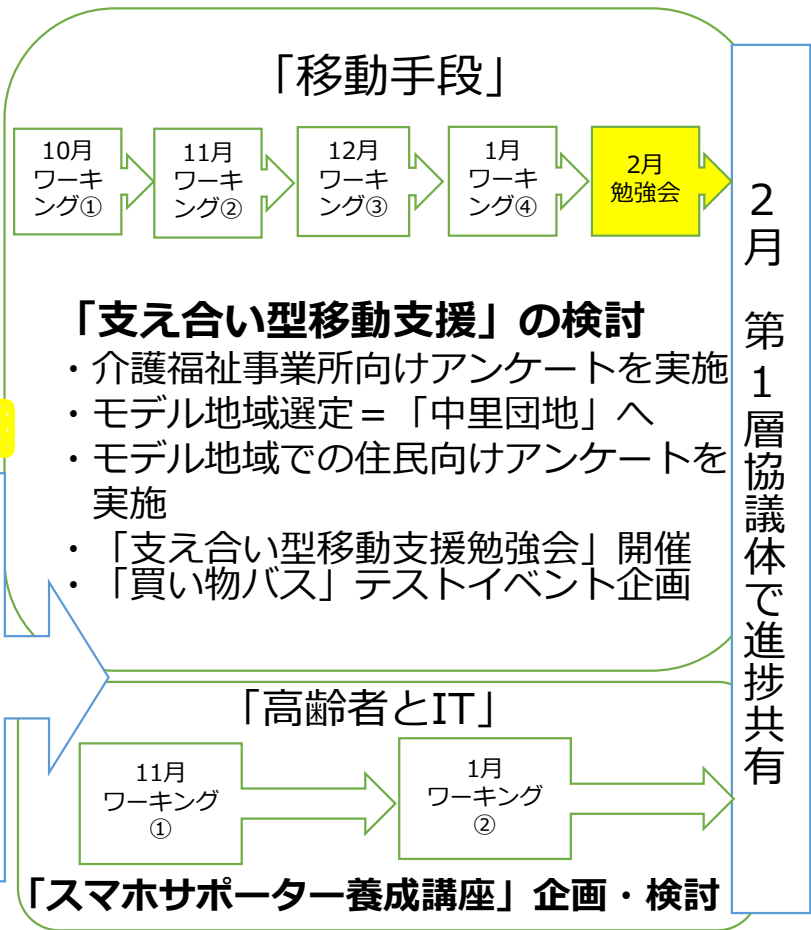
2層レベルで挙げた課題が起点

6月 地域ケア合同会議

- ・ 各地域ケア会議で挙げた課題を持ち寄り、振り分け。
- ・ 「移動手段」「高齢者とIT」を、第1層協議体に持ち込む(=市内全域の)課題と位置づけ

9月 第1層協議体

「移動手段」「高齢者とIT」を、第1層協議体で扱うことを確認(承認)



中里団地買い物バステストイベント

内容：いなげや秋津駅前店での買い物

時間：2時間(うち買い物1時間)

頻度：月1回程度

(+スタッフ打合せ月1回)

参加費：100円

対象者：中里団地およびその周辺にお住いの概ね**65歳以上の方**で、**自力**、**またはちょっとしたサポートがあれば車両の乗降ができる方**



買い物バス テストイベント

5/11(木)11:30~14:00
5/29(月)11:30~14:00

行き先：いなげや秋津駅前店

商品を選択して買いたい方に！
買い物車での乗り降りのサポートが受けられます！
周辺の飲食店などでお昼も！

参加費：100円 (カンパ代、行事保険代)
定員：各日程6名程度
対象者：中里団地およびその周辺にお住いの概ね65歳以上の方で、自力、またはちょっとしたサポートがあれば車の乗降ができる方

スケジュール(両日程共通)

11:30 中里団地集会所前集合、乗車
11:45 いなげや秋津駅前店 買い物、昼食など(自由行動) **雨天決行**
13:45 いなげや屋退席
14:00 中里団地集会所前着、アンケート記入、解散

【お申込み方法】
高村の申し込み票に記入し、042-496-5335:www.city.kiyose.lg.jpへFAX
または中里団地自治会集会所ポストへ投函

受付期間：各実施日程の3日前まで、先着順、定員に達し次第受付終了。

役割分担

社会福祉法人(月替わりで協力)

- 高齢者や障害者の通所施設の空き時間の車両の協力
- 職員による運転の協力
- ボランティアが支援を行うにあたってのアドバイス

R6年度 協力量人
マザアス
東京アフターケア協会
東京聖労院



法人にとってのメリット

- 各法人の専門分野以外の課題を知ることができる
- 各法人の事業の周知になる
- 「地域における公益的な取り組み」が実施できる。

団地住民有志によるボランティア(毎回3名程)

- 受付・参加費預かり
- 車両乗降のサポート
- 荷物積み下ろし
- 買い物中の付き添い
- 店内の商品を一緒に探す
- **自宅往復のサポート**



介護保険課・清雅第2層SC
→第1層SCのバックアップ
第1層SC(第1層協議体)
→**主催**・協力量人や事業所との調整、プロジェクト全体のマネジメント

保険の考え方

買い物バスを「ボランティア行事」に位置付けて実施

①法人・事業所が入る保険

- 自動車保険、自賠責保険
(施設車両がもともと加入している)

②主催者(第1層協議体)が入る保険

- 行事保険…ケガ等の補償
(参加者・ボラ全員が対象)
主催者の賠償責任に対する補償
→送迎バス昇降時のケガ
車内のケガも補償の対象

保険の考え方

買い物バスを「ボランティア行事」に位置付けて実施

③ボランティア(添乗・買い物)が入る保険

- ・ 行事保険で補償

- ＊ 補償範囲が重なるため、

 - 本イベントでボランティア保険は加入せず

④運転手が入る保険

- ・ ボランティアでの協力の場合…行事保険で補償

 - 入院費用程度の補償

- ★勤務での場合…法人・事業所の保険(労災など)で補償

 - 事故などによる長期休養などに

 - 対する補償も

費用(実費)の考え方

参加費(1人1回100円)より捻出

- ①ガソリン代…1回約80円
- ②行事保険…33円×人数分(参加者・ボラ)
+手数料262円

- * 駐車場代…店舗のご厚意で、費用かかりません。
- * ボランティアへの謝礼…今回は検討せず。

【ガソリン代計算方法】

走行距離(km)÷燃費×1ℓあたりのガソリン価格

- ・ハイエースの燃費…約9km/L
- ・東京都のガソリン代の平均…約170円/L
- ・中里団地といなげや秋津駅前店の往復…約4.2km

イベント中の安全対策

店舗の選定

- 団地から店舗の距離が遠すぎない
- 店内が広すぎない（2F建て）



車両昇降時の安全確保

- 職員が昇降を補助
- 事業所側で踏み台を用意いただく
- 杖・シルバーカー利用者は最初に乗って最後に降りる

店内での安全確保

- 参加者に対しエレベーター利用の呼びかけ
- 杖・シルバーカー利用者の方へのボラ付添
- 毎回ボラ2名以上が同乗・付添

地域に対する効果

①自分で選びたい！を叶える

- ・バナナの熟し具合だって好みがある！
- ・ポイントカードを貯めたい！
- ・洋服は通販だと失敗しちゃうから、自分で見て買いたい！



②外出機会の創出・閉じこもり予防

- ・お店を歩き回ると運動になる！
- ・商品選びが刺激になる！
- ・買い物が気晴らしになる！



③団地内のつながりづくり

野菜のおすそ分けをしたり、

「次の買い物バスも来てくれる？」

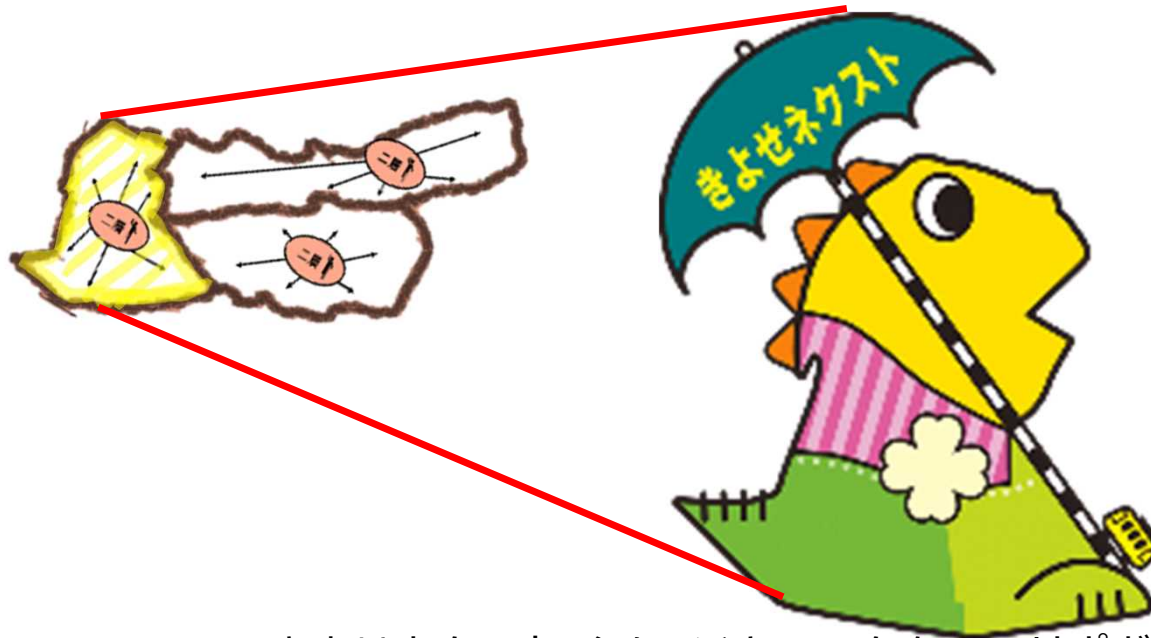
「今度も〇〇さんに手伝ってほしいわ」

など立ち話したり…

買い物以外の日にもスタッフと参加者がコミュニケーションをとるようになった

「住民主体の生活支援サービス」の立ち上げ

～生活上のお困りごとを「ありがとう券」のやりとりにより
解決するプロジェクト「きよせネクスト」～



きよせネクストイメージキャラクター：サポどん
地域の小学生の投票で名前が決まりました

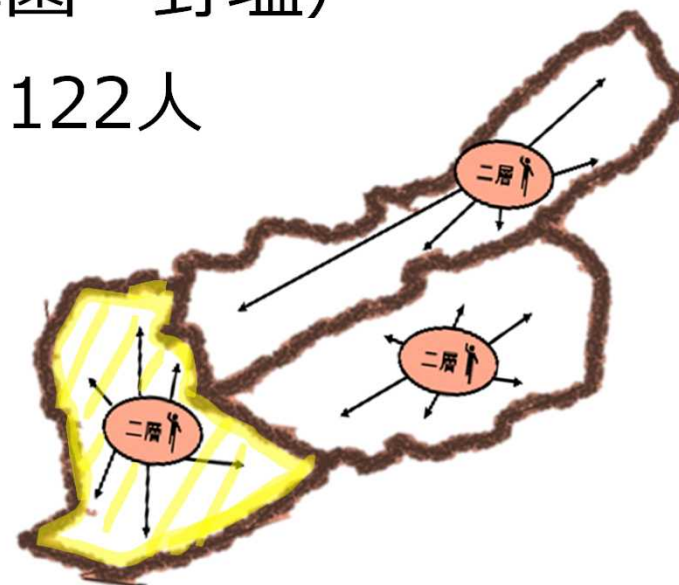
きよせ信愛地域包括支援センター 担当地域の特性（竹丘・松山・梅園・野塩）

- 人口28,813人　うち高齢者人口8,122人
（高齢化率28.8%）

〈地域特性〉

- 大・中規模の病院が多い
- 社会福祉法人が多く所在している
- 医療・福祉の大学が集中している
- エレベーターなしの団地が多い
- 一部地域は急坂があり、買い物や通院のための外出がしづらい


＞コミュニティバスはあるが、1時間に1本前後




きよせネクストとは？

←HPはコチラ！

=有償ボランティアによる住民主体の生活支援サービス




気軽にお願いできて
助かる～！



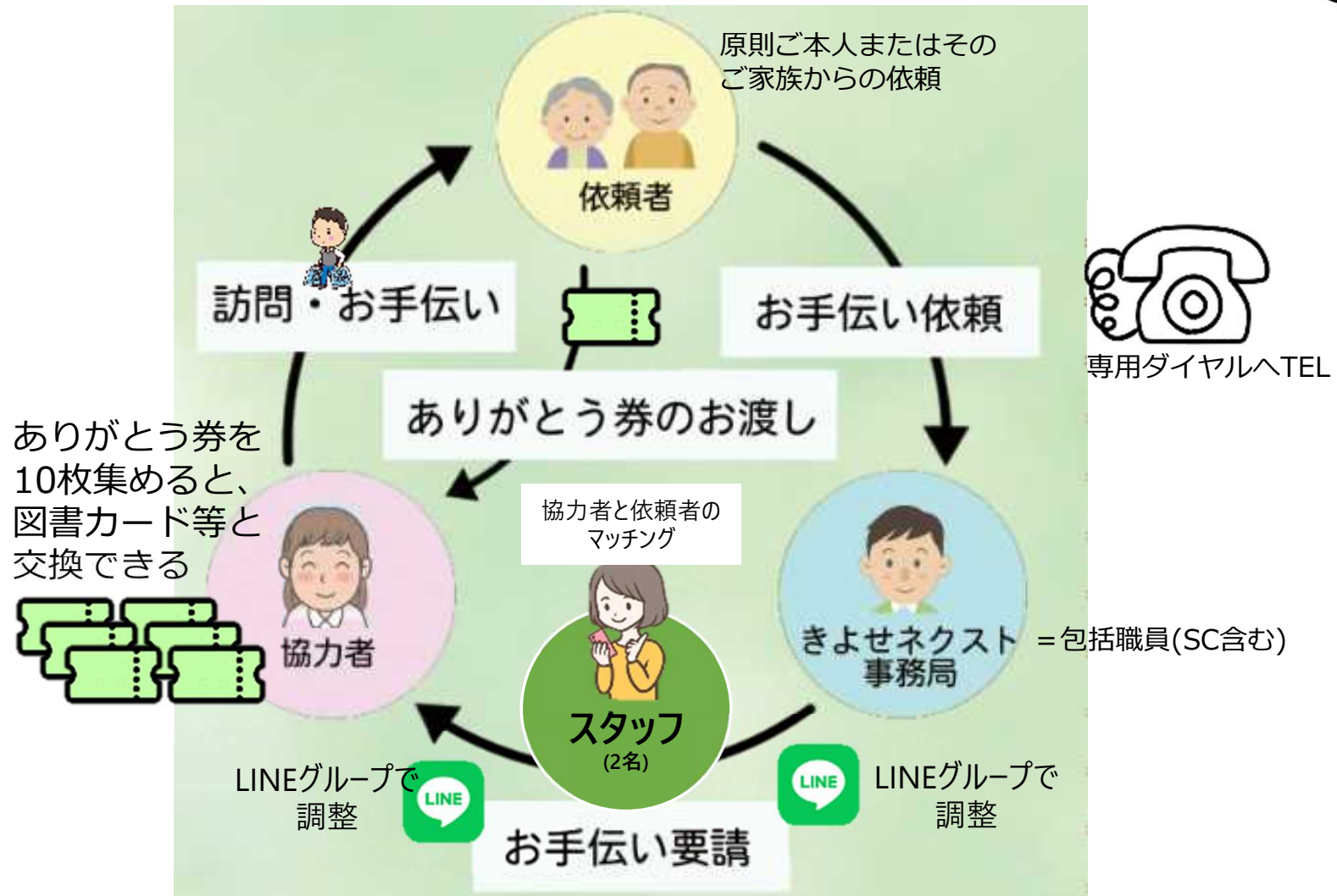
⇒ **ありがとう券** は…

- ⇒ お困りごとを依頼するためのチケットです
- ⇒ 梅園・野塩・竹丘・松山にお住まいで、
- ⇒ 65歳以上でお困りごとがあり、お手伝いを必要とする方が利用できます。
- ⇒ 『**きよせネクスト事務局（きよせ信愛地域包括支援センター内）**』
で購入できます
- ⇒ **10枚綴り3,000円**で販売
- ⇒ ※購入にいらっしゃる事が出来ない方は、「ありがとう券」1枚で、お届けすることができます。
- ⇒ チケット1枚（300円）で15分程度の作業を依頼できます

気軽に相談してね！



支援実施までの流れ



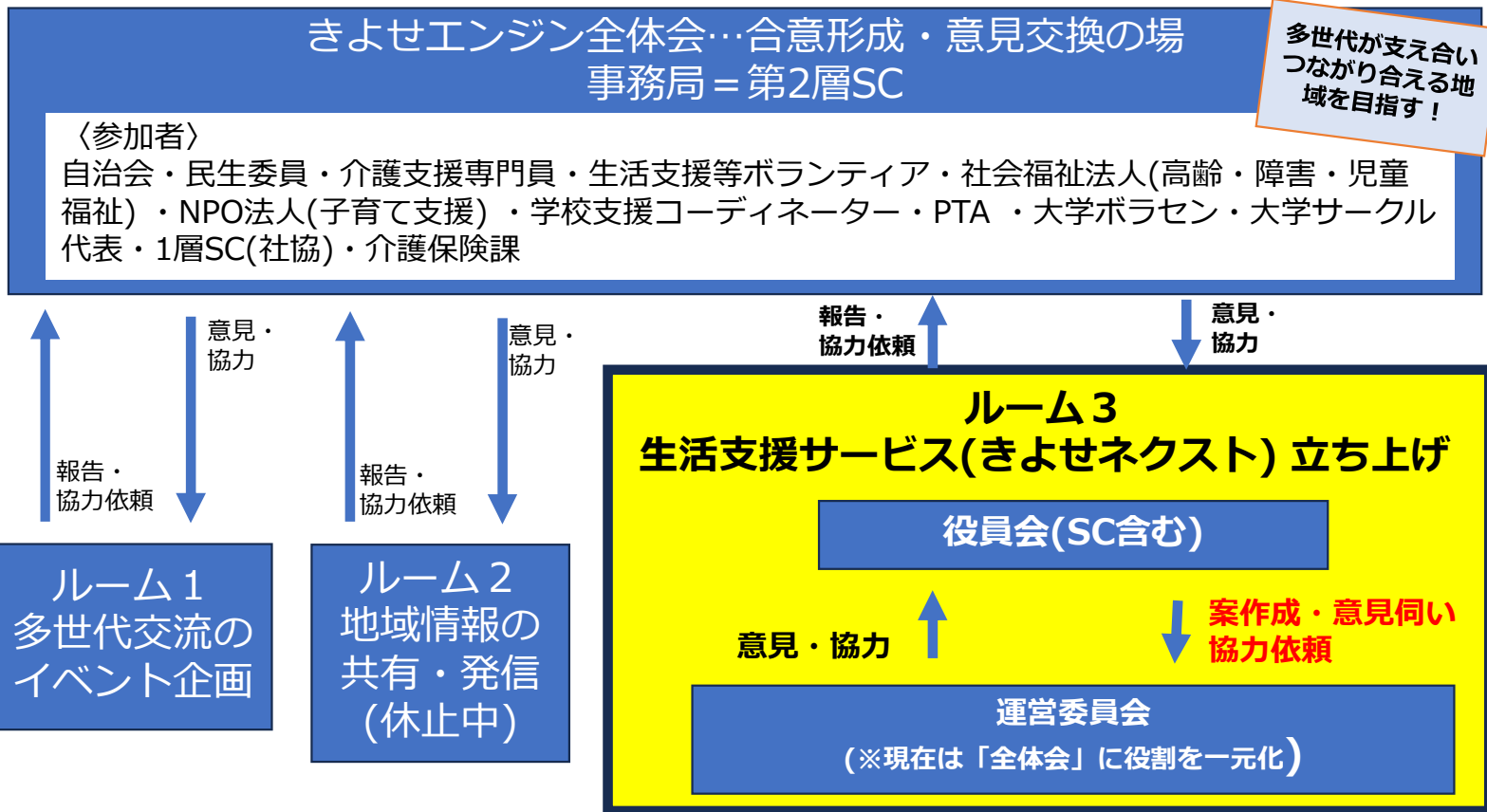
支援実績 〈令和5年度8/15～3/31時点〉

- 全体の支援件数：190件（うち定期支援148件）
- 通常依頼の地域別内訳：松山13件、竹丘11件
梅園10件、野塩8件
- 平均支援件数：25.6件/月(うち定期支援20.0件/月)
- ありがとう券売り上げ：18.3万円（61冊）
- ボランティア登録者数：登録者43名
うち高校生・大学生11名
- 依頼の多い支援内容：花の水やり(定期支援)、
家具移動、買い物代行、
整形外科への診察券提出…



検討の体制

- 令和2年度「清瀬市生活支援コーディネーター活動方針」に「住民主体の生活支援サービス立ち上げ」が2層SCのミッションとして位置付けられたことを受け、第2層協議体で、支え合い活動立ち上げ検討に特化した部会「ルーム3」を設置



↑ 報告・協力依頼 ↓ 意見・協力

↑ 報告・協力依頼 ↓ 意見・協力

立ち上げ前の情報収集

①地域課題・ニーズの把握

- 第2層SCが地域活動を訪問する中で、担い手不足の課題と、広域での担い手募集の必要性を把握
- 包括エリア内の自治会および介護予防の通いの場の参加者に対しアンケート調査を実施

②他市の先進事例の情報収集

「水谷東支え合い隊(埼玉県富士見市)」視察・ヒアリング

「支え合い活動立ち上げ手引き(千葉県市川市)」参照 他

➤関係者間で検討の上「エリア全体を網羅する仕組み」を目指すことを確認

対象者・支援内容の選定

① 依頼者の条件

信愛包括エリア在住の65歳以上の高齢者
(障がい者・子育て世代など対象拡大の構想あり)

② 協力者の条件

お住いのエリアや年齢等を問わず、LINEを利用できる方

③ 支援内容

原則「その時々でできる人ができる支援を行う」

〈行わない支援〉

- 感染リスクを伴う支援(トイレ掃除、感染症に罹患している方の通院同行など)
- 事故・ケガのリスクを伴う支援(悪天候時の屋外作業など)
- 専門性が必要な依頼(石の廃棄、機械修理で専門知識が必要な物など)

立ち上げ資金の確保

①補助・助成を受けた制度

- 民間の助成金(SOMPO福祉財団NPO基盤強化資金助成「住民参加型福祉活動資金助成」他)
- 市の補助金(新型コロナウイルス感染症に伴う地域課題解決事業補助金)
- バザー・ネットオークションでの収益
(2層SC主催のプロジェクト「もったいない活用塾」)
- その他、住民の皆さまからのご厚志



②購入したもの(一例)

- 支援に必要な備品・機材…PC、スマホ、Wi-Fi、プリンター、ありがとう券印刷費、金庫、機材保管庫、名札…
- 備品兼広報グッズ…「サポどん」デザイン入りチームベスト・缶バッジ・軍手(「サポどん」デザイン料含む)



情報発信(利用者の拡大)

- エリア内の自治会の総会や通いの場を訪問し説明
- 民生委員の会合等を訪問し説明
- パンフレットを作成し、公共施設などへ積み置き
- ホームページ作成
- 福祉関係者等への周知(ケアマネ・デイサービスなど)
- 市報掲載



情報発信(協力者の拡大)

第2層協議体委員からの協力

- 大学ボラセン・学内サークルとの連携
 - ▶ 大学ボラセンコーディネーターよりSCへ学内サークル紹介、参加呼びかけ
 - 学校支援コーディネーターより生徒等へ参加呼びかけ
 - 各社会福祉法人の職員・利用者からの協力
 - 協議体委員自身が担い手として協力
-
- 担い手説明会の実施(市報で告知)

利用者の声

〈80代女性〉

- 8月の猛暑の時期、すだれの取付を依頼しました。遠方在住の子どもたちには気軽に頼めず、でも少しでも日差しを防ぎたいという気持ちもあり、そんなときに友人から「きよせネクスト」を教えてもらいました。
- 普段からお世話になっている生活支援コーディネーターや、地域包括支援センターが関わっているしくみであることから、安心して依頼できました。
- 協力者2人で計45分の作業でした。業者に頼むと数万円かかると言われていましたが、ありがとう券6枚（1800円相当）で済んだのは、本当にありがたく思っています。
- 次回以降はこのありがとう券で、電球交換などちょっとした頼みごとなどでも利用してみたいと思いました。



協力者の声①

〈60代女性〉

- 定年を迎えて、自由な時間が増えたことで、この高齢化社会で自分に何か出来ることはないか？ということを考え始めたころに、きよせネクストを知りました。
- 協力したいと思ったら、申込書を書くだけで活動を始められるので、比較的気軽に感じました。また自分の身近な地域での活動ということも助かりました。
- 支援した方の中には行き詰った状態だった方もおり、支援後のその方からの感謝の言葉で「私は地域に役立てたんだな～」と感じられたことが嬉しかったです。
- ありがとう券を集めて図書カードと交換できるのも嬉しかったですね。ある程度まで集めた券を一度に交換し、高価な本を買うのを楽しみにしています。
- お金を直接やり取りするのではなく「ありがとう券」を介しているのも実はありがたかったりします。利用者とのトラブル防止になる他、有効期限がない、友人への譲渡可などの点も使い勝手が良いです。



協力者の声②

〈大学生〉

- 入学時はコロナ禍で、バイトもボランティアもままならず。でも福祉の大学に入ったからには、少しでも地域に出て学びを得たいという思いがありました。何をどうしたら良いかわからない中で、先輩から「きよせネクスト」のことを聞き、初めてボランティアをしました。
- 私たち学生にとっては、時間を縛られず活動できるのがありがたいです。講義の合間など空いている時間で、自分の出来ることをするだけなので、その点が気楽でした。
- 定期的なゴミ捨ての手伝いを継続しており、ありがとう券を集めて引き換えた図書カードは、大学の教材購入にとっても役立っています。
- きよせネクストで把握した地域の課題を、卒論のテーマとして扱い、教授にとっても褒められたことがうれしかったです。
- きよせネクストの有償ボランティアという仕組みが私に一步踏み出す勇気を与えてくれました。ぜひこの活動を後輩につなげていきたいと思っています。



担当第2層SCとして考える成果と課題

〈成果〉

- 活動開始後、当初の想定の倍以上の依頼件数があり、地域からのニーズを実感している
- 支援を通じ、介護保険サービスを利用していない閉じこもりがちな高齢者の情報を把握できる

〈課題〉

- 登録者の中から、実際に活動に参加できる協力者を増やすこと(登録45名のうち実働約20名)

全域への波及効果

- 市内SCにおける「住民主体の生活支援サービス」立ち上げノウハウの構築・共有
- 団体立ち上げに活用できる助成金・補助金の新設
 - 地域福祉活動応援助成 チャレンジ枠
 - 地域支え合い活動支援事業